



アレルギーのお話し	1ページ
新任医師紹介/「やまぼとギャラリー」「個展」情報コーナー!	2ページ
三重病院レポート 市民公開講座「こどもの健康教室」を開催して/医療福祉相談室だより	3ページ
アレルギー教室のクッキング/外来からのお知らせ/三重病院外来糖尿病教室のお知らせ/外来診察のご案内	4ページ

アレルギーのお話し

3月にZTVの「おしえて先生」でアレルギーについてのお話をしました。今回はその内容の一部をご紹介しますと思います。

◆アレルギーとは

本来は身体を守るために働く免疫反応が、身近にあるものに対して過剰に反応してしまい症状がでてしまうことを一般的にアレルギーと呼んでいます。アレルギーの原因となるのは食物、ホコリやダニ、ペットの

皮膚、花粉など身近にあるものです。こういった原因に対する反応が皮膚で起こればアトピー性皮膚炎、気道で起これば気管支喘息、鼻や目で起こればアレルギー性鼻炎、結膜炎となります。

◆アレルギー・マーチとは

乳幼児期のアレルギーは、成長によって発症しやすいアレルギー疾患が変化するのが特徴です。これを「アレルギー・マーチ（アレルギーの行進）」と呼んでいます。乳児期にアトピー性皮膚炎や食物アレルギーを発症し、少し成長して喘息やアレルギー性鼻炎が出てくるというのがよくあるパターンです。現在は赤ちゃんの時の湿疹やアトピー性皮膚炎を早期にコントロールすることで、その後の食物アレルギー発症を予防することができますと言われています。これは荒

れている皮膚を介してアレルギーを獲得すると考えられているからです。肌のかさかさや赤みに対しては早めに保湿剤などでスキンケアをしていきましょう。



◆食物アレルギーについて

アレルギーの中でも最近増えてきているのが食物アレルギーです。食物アレルギーの診断は血液検査だけではできません。実際に食べて症状が出ることで診断します。当院では経口負荷試験を行い、その子がどのくらいの量を食べれば、どのくらいの症状が出るのかを診断しています。現在の食物アレルギー治療の原則は、原因となる食物の必要最低限の除去を行うことです。成長に必要な栄養をしっかりとれるよう、経口負荷試験の結果を基に栄養指導を行っています。正しく診断し、食べられるものは積極的に摂取していきま

しょう。
乳幼児期に発症する食物アレルギーは、鶏卵、牛乳、小麦に対するものが多く、そのほとんどは就学前までに自然に治ります。しかし、一部に小学校入学近くになっても治らない子供たちがいます。こうした子供たちを対象に、当院では急速経口免疫療法を行っています。数年間の根気のいる治療ですが、症状の出ない少量から食べ始め徐々に増量することで摂取量を増やすことができます。お困りの方は是非ご相談ください。

(小児科 平山 淳也)